

## 事例 NO.91

### NACSIS-CATで所蔵のない会議録の所蔵調査

#### ・質問

下記資料に掲載されている文献の入手を希望している。  
国内に所蔵館があれば、該当部分の複写物を取り寄せてほしい。

資料名：KDD '14 Proceedings of the 20th ACM  
SIGKDD international conference on Knowledge  
discovery and data mining  
ページ：1877-1886  
出版年：2014  
著者名：Scott Spangler, Angela D. Wilkins, Benjamin J.  
Bachman et al.  
論文名：Automated hypothesis generation based on  
mining scientific literature  
ISBN：978-1-4503-2956-9

[学内者，Email受付，2014年11月]

#### ・調査の経緯

会議録は学会のWebサイトで全文公開されていることも多い。学会（ACM=Association for Computing Machinery）のWebサイト<sup>1)</sup>を確認したところ、全文は公開されていないが、この会議録および入手希望の論文についての情報が掲載されており、書誌事項の確認をすることができた。またこのサイトから論文単位で購入できるようであったため、（金額や購入手続の問題はあるが）入手不可能な資料ではないということも確認できた。

次に国内の所蔵館について調査した。ISBNが付いてはいるが継続して発行されている会議録ということを考慮し、図書・雑誌の両面からNACSIS-CATにて所蔵館を検索した他、国立国会図書館<sup>2)</sup>及びNACSIS-CAT未参加館で科学技術関係の会議録を多く所蔵する科学技術振興機構（JST）<sup>3)</sup>の所蔵を検索したが、所蔵館は見つからなかった。

JST、国立国会図書館同様に東京工業大学附属図書館<sup>4)</sup>



でも科学技術関係の会議録を多く所蔵している。同館はNACSIS-CAT参加館ではあるが会議録という特殊な資料のためCATに登録していない可能性もあると考え、OPACを検索したところ下記の資料がヒットした。

KDD : Conference on Knowledge Discovery in Data

資料種別 : 電子ジャーナル

出版情報 : ACM Digital Library

OPACから得られる情報は以上のため、書誌の同定および該当論文が収録されているか、また、複写の可否についてFAXで照会を行ったところ、該当論文は収録されており複写の提供も可能との回答を得た。

## ・回答

国内の大学図書館に所蔵館がありましたので、複写物を取り寄せることが可能です。ご希望の場合はお申込みください、と依頼者に連絡することができた。

## ・情報源

- 1) ACM Digital Library[internet]. <http://dl.acm.org/> [accessed 2015-08-18]
- 2) 国立国会図書館サーチ (NDL Search) [internet]. <http://iss.ndl.go.jp/> [accessed 2015-08-18]
- 3) JST資料所蔵目録Web検索システム[internet]. <http://opac.jst.go.jp/index.html> [accessed 2015-08-18]
- 4) 東京工業大学附属図書館蔵書検索 (OPAC) [internet]. <http://topics.libra.titech.ac.jp/> [accessed 2015-08-18]

## ・補足

会議録といえば代表的な灰色文献の一つである。今のようネット上で公開される情報が多くなかった時代は“Index to Scientific and Technical Proceedings” (ISTP)

のような索引ツールで書誌事項を確認したり、会議録を多く所蔵している図書館に照会したり（そのためには当然どの図書館が会議録に強いかわかり、知っていないといけない）と、通常の図書や雑誌に比べてやるべきことが多くそれを覚えておくのに苦労した記憶がある。

今は国立国会図書館の「リサーチ・ナビ」(<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/index.php>) がテーマごとに調べ方をまとめてくれており、いい時代になったものだと感謝している。

また、他機関に照会する際には以下のことを記述するよう心がけている。

- ・どこでその資料のことを知ったか（「論文の参考文献」 「〇〇というWebページに掲載されていた」等）
- ・自館での調査内容（なるべく具体的に。例えば「ネットで探しましたがなかなか見つかりません」よりは「NACSIS-CAT, NDL Search, JST所蔵目録を確認しましたが所蔵ありませんでした」のように。見つけれなかったからこそ書く。相手館の手間が省けるし、新たな視点で検索し直してくれるかもしれない）
- ・所蔵があれば、何を依頼したいか（閲覧・複写・貸借のいずれかまたは「閲覧して複写したい」等の組み合わせか）

これらは採用当時「相手館の方は自分達のために時間を割いてくれるのだから、調査がしやすいように書きましょうね」の言葉とともに教わった心得である。

探し方は変わっても、これらの心得は不変ではないだろうか。お世話になる方々への感謝の心を忘れずに、これからもレファレンスを続けていきたい。

（徳島大学附属図書館 蔵本分館 國見 裕美

[kunimi@lib.tokushima-u.ac.jp](mailto:kunimi@lib.tokushima-u.ac.jp)

ヘルスサイエンス情報専門員（基礎））